

インプラント堤防
(鋼矢板芯壁堤)

インプラント構造の連続壁で堤防に“背骨”を通し、迅速に強化する

インプラント構造は、躯体部と基礎部が一体となった許容構造部材を地盤に挿し込み、地球にしっかりと支えてもらう構造です。

■ 大地震・津波に耐えた鋼矢板二重締切

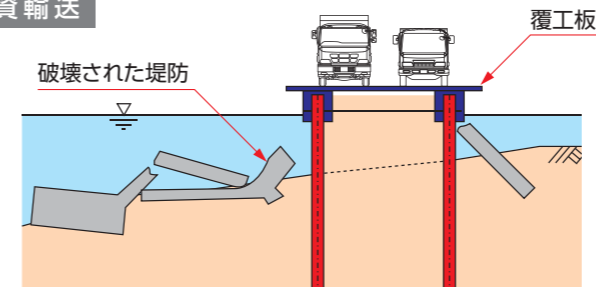


▲ 岩手県下閉伊郡山田町織笠川水門

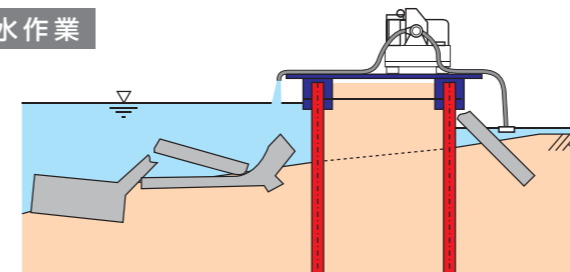
東日本大震災では多くの堤防が被害を受ける中、鋼矢板二重締切は完全な形を保持したまま機能し続けていました。インプラント構造の耐震・耐津波性能が証明された事例です。

■ 災害復旧・復興活動での活用

物資輸送



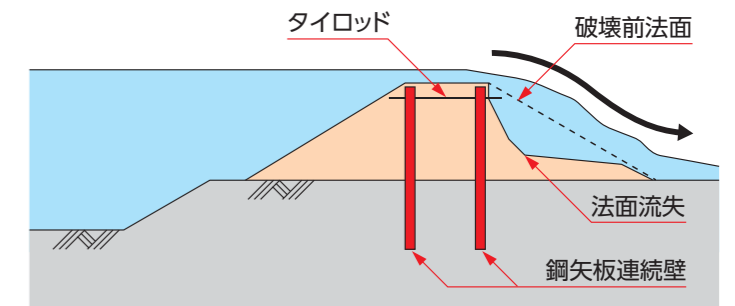
排水作業



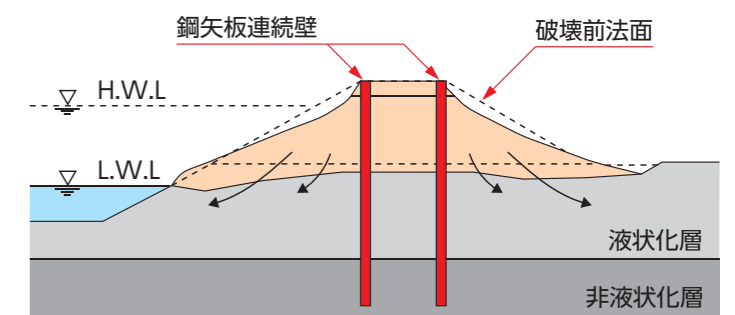
インプラント堤防は、被災しても天端高を保持できるため防災機能を維持することができます。さらに天端に覆工板を架設することで、緊急輸送道路や浸水時の排水作業などに活用できます。

■ インプラント堤防の効果

越水対策 越波・越水により法面が流出しても天端高を保持



液状化対策 液状化により法面が崩壊しても天端高を保持



■ 施工例



▲ 高知県高知市青柳町

高潮対策としてインプラント堤防を構築した施工例です。硬質地盤クリア工法により既設堤防の堤体に鋼矢板を圧入しています。